

第3回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会

■平成 21 年 4 月 29 日（水） ■ユニバー記念陸上競技場（補助競技場）

報告：中嶋 敦

春の日差しの中、朝早くから兵庫県、神戸市の関係者等で準備が始まり本部テントの設置、スラロームコースの準備、フライングディスクの会場づくりと皆大忙しです。

そして、指導者協議会員は大会総務、陸上競技審判員、競技補助員、フライングディスク競技審判員などの役割で多数の参加です。遠くは豊岡市からも参加がありました。

この大会は、年一度毎年 4 月 29 日に開催されています。車いす使用者だけの大会は全国でも唯一であり、150 名の参加は全国屈指の歴史ある大会です。

開会式では、車いすダンスによるアトラクションは大会を和やかなものにしました。そして、選手の皆さんはそれぞれの競技場に移動し、日頃の練習成果を出す選手と応援する家族や職員で大変盛りあがっていました。午前中の競技が終わる昼食時も、総務に当たる会員は表彰で慌ただしい状況でした。

午後のトラック種目 1500m、5000m 競走にはパラリンピックゴールドメダリスト畑中 和選手をはじめ強豪が走る様は速さと華麗なまでの疾走には多くの関係者が魅了されました。

競技とは別に、本協議会広報部のスタッフは例年のとおり指導者協議会員の活動手帳押印や昼食配布など陰で大会を支え、県身障者陸連では広報チラシの配布も行われていました。

これまで本大会支援の指導者協議会員調整は神戸市と兵庫県の両者が行っていましたが、本年より本協議会からの発信で一本化し、円滑な人員配置と会員同士の連帯意識が向上したのと思われる。

成績は、全国大会記録を超えるものまで好成績出され、本年新潟で開催される全国障害者スポーツ大会の選考も気がかりです。

大会は最後まで事故や大きな怪我也もなく、会員の皆さんの力が大会を支えていたことがとても印象深い一日でした。

指導者協議会会員 24 名

啓明高等学校陸上競技部員 30 名

選手 146 名 審判員 57 名



【ミニ情報】本大会は、昭和 40 年代総合リハビリセンターを会場に開催され、7-チェリーやミニ駅伝が実施されていました。